

平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

1. 明るく健康で、自らを高め、他人を尊重する、人間性豊かな人格の完成をめざす。
2. 工業教育を通じて、規範意識を身につけさせ、勤労と責任を重んじ、幅広い技術をそなえた社会人を育成する。
3. 北摂唯一の府立の工業高校として、「ものづくり」の技術と技能、知識によって将来の地域社会を担うことができる人材を育成する。
4. 府立の工科高校における高大連携重点型校として、大学等と連携した工業教育で、技術と理論を兼ね備えたエンジニアを育成する。

2 中期的目標

- 1 「確かな学力」の育成
 - (1) 新学習指導要領を踏まえ、基礎的・基本的な学力の定着をめざした授業改善に取り組む。
 - ア 少人数授業、授業評価、ICTの活用、研究授業等を通じて、より「わかりやすい授業」をめざして組織的に授業改善に取り組み、中退率改善を図る。
 - ※ 平成 25 年度入学生から導入した「学び直し」のための学校設定科目「工業入門」を発展、充実させ、基礎的・基本的な学力の定着をめざす。
 - ※ 生徒向け学校教育自己診断における「授業は分かりやすく楽しい」の肯定的な評価の目標を 50%以上とする。(平成 26 年度 38%)。
 - ※ 中退率 5%未満をめざす。
- 2 安全安心で魅力ある学校づくり
 - (1) 生徒の規範意識を醸成し、規律ある学校生活を送らせるとともに、個々の生徒への支援体制を充実させる。
 - ア 挨拶、身だしなみ等、社会人として求められる礼儀を身につけさせるため、基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成に努める。
 - イ 教育相談体制を充実させるとともに、人権教育・支援教育を推進する組織の活性化を図る。
 - (2) 生徒の健康管理・安全衛生の意識を高めるとともに、事故のない安全な学校づくりに取り組む。
 - ア 生徒保健委員会を活用し、校内美化の取組みを推進する。
 - (3) 生徒会活動、部活動を通じて生徒の自己有用感を醸成するとともに、集団や学校への帰属意識を高める。
 - ア 行事、生徒会活動、部活動の活性化を図り、生徒自らが課題意識をもって学校生活を送れるよう支援する。
 - ※ 年間遅刻総数について、5000 以下に削減することを目標とする。
 - ※ 学校管理下での事故、特に「実習中の事故ゼロ」を継続する。
 - ※ 部活動の加入率 50%以上を継続する。(平成 26 年度 54%)。
- 3 自立・自己実現の支援（～工科高校の理念である「専門分野の深化」と「高等教育機関への接続」の推進～）
 - (1) キャリア教育・職業体験教育の充実を努める。
 - ア 「インターンシップ」等の体験的学習を重要な教育活動として位置づけ取り組む。
 - (2) 資格取得指導等を通じて、生徒に達成感、成就感を醸成し、進路実現への意欲を高める。
 - ア 資格取得や就職試験に向けた全学的な協力体制を推進する。
 - (3) 理工学系大学等の高等教育機関への進学を希望する生徒等の支援を強化し、ものづくりマインドを持った将来の高度技術者の育成をめざす。
 - ア 平成 26 年度開設の工学系・大学進学専科からの理工学系大学進学率 100%をめざす。
 - (4) 「校長マネジメント推進事業中期計画推進費」における推進校としての取組みを通じて、幅広い知識と技術を備えたものづくり人材の育成を図る。
 - ア 全国工業高等学校長協会の 100 周年記念事業「小型人工衛星打ち上げプロジェクト」の製作協力校として、打ち上げに参画することを目標に、関係諸機関との連携を図りながら、生徒に技術・技能を学ばせる。
 - ※ 学校紹介による就職内定率 100%を堅持するとともに、3 年後の離職率を 30%以下にする。
 - ※ インターンシップの参加者数の目標を 50 人とする(平成 26 年度 25 人)。
- 4 地域連携・地域貢献の取組みの推進
 - (1) 生徒支援のための中高連携を推進し、中高連絡会と学校訪問の充実を図り、アドミッションポリシー(求める生徒像)が中学生、保護者等に明確に伝わるよう学校情報を積極的に発信する。
 - ア 生徒・保護者向けの学校説明会等に加え、中学校教員向け等の施設見学会等を実施し、定着させることより、中学生、保護者、教員等の工科高校への理解を促し、志願者増加につなげる。
 - (2) 「ものづくり」による地域貢献活動を、発展的拡大して実施することにより、生徒に自尊感情・自己有用感を醸成する。
 - ア 課題研究の取組みを 3 つの系の連携も図りながら、さらに充実させ、地域貢献活動の発展的拡大につなげる。
 - ※ 中学校訪問数延べ 100 校以上を継続する。
 - ※ アルミ製朝礼台等の製作・寄贈、茨木市イルミネーション事業等への参画を継続する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 27 年 1 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>結果</p> <p>○生徒は、工業高校の特色に理解を示している。</p> <p>○課外活動については、生徒に興味を持たせる指導が十分できているとは言えない。</p> <p>○保護者は、「子どもを入学させてよかった」について昨年度と同様に肯定的意見が多く、信頼を得られている。また、学校の行事に参加する機会が少ないと感じている。</p> <p>○生徒のレベルに応じた授業内容になるよう、多くの教員が努力をしている。また、家庭連絡も積極的に行っている。</p> <p>分析</p> <p>○学校行事や HR 活動、授業について、生徒の満足度が高いとは言えない状況である。</p> <p>○生徒は、他の教員が授業見学に来ることが多くなったと感じており、学校が授業公開への取組みに注力していることが反映されている。</p> <p>○進路指導等の連絡、意思疎通について、原因は特定できていないが、保護者の肯定的回答の割合が大幅に下降した。保護者への情報伝達の方法等を改善する必要がある。一方で、人権教育や授業内容については理解されている。</p> <p>○生徒からは気軽に話しかけられる教員が増えており、教員生徒間の信頼関係が良好であることが窺われる。</p>	<p>第 1 回 (6 月 19 日)</p> <p>○生活指導部について</p> <p>生徒指導主事の報告から、遅刻者数の大幅削減、生徒の規範意識向上のために、指導方法を抜本的に変え、学校全体で努力していることがよくわかった。この成果は、生徒と教員の関係がよくなってきたからだと考えられる。今後とも継続して、粘り強い指導を期待する。</p> <p>第 2 回 (11 月 2 日)</p> <p>○生活指導部について</p> <p>粘り強い指導の結果、遅刻者数が大幅に減少している。今後も継続して取り組んでもらいたい。</p> <p>○授業アンケートについて</p> <p>アンケート結果をもとに、教員それぞれに改善すべきところを把握してもらいたい。</p> <p>第 3 回 (2 月 23 日)</p> <p>○生活指導部について</p> <p>遅刻者数が大幅に減少し、年間目標を達成することができた。来年度は、さらなる減少を期待する。情報モラルの向上を図る対策を講じて欲しい。</p> <p>○進路指導部について</p> <p>本年度も就職率 100%を達成することができた。進学希望者も 100%達成できたので、来年度は、大学進学専科の理工学系大学進学希望者の進学率 100%達成を期待する。</p>

府立茨木工科高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1. 「確かな学力」の育成	(1) 基礎的・基本的な学力の定着をめざした授業改善の取組み ア 少人数授業・研究授業等の取組み イ 中退率改善をめざす取組み ウ 「学び直し」を活用した基礎・基本的な学力の定着をめざす取組み エ 家庭学習の習慣を身につけさせる取組み オ 授業公開の取組み (2) 工学系・大学進学専科における取組み ア 理工学系大学等で高度な知識、技術を学ぶための確かな学力をつける取組み	(1) ア 加配等を活用し、1年生の数学、英語で1クラス2展開授業、習熟度別授業を実施するほか、家庭科、芸術、理科ではTTによる授業を実施する。 イ 生徒のニーズや実態を把握するために、新入生を対象にしたアンケート、退・転学者向けのアンケートに加え、教育産業の支援を受けて基礎力診断テストを実施することにより多角的な分析を行い、中退率の改善に活用する。 ウ 学校設定科目「工業入門」について、生徒のニーズ・取組み状況等を把握し、教材、授業方法等に修正を加えながら生徒のやる気を引き出す。 エ 各教科で教育産業の教材を活用するなど、積極的に宿題を課す。 オ 自主的な授業公開・研究協議を6月及び11月に実施する。また、保護者への授業公開時に、アンケートを実施する。 (2) ア 大学の理工学部系での学びを意識し、基礎から応用に発展する数学、理科、英語の授業の充実を図るとともに、土曜講習や長期休業中の講習を実施する。	(1) ア 生徒アンケートによる満足度80%(H26 75%)。 イ 中退率7%未満。(H26 6.3%)。 ウ 数学基礎診断テストの2回目の成績5ポイント以上上昇(H26 -2.5ポイント)。 エ 年度末に実施している生活指導関係アンケート等の結果改善。 オ 全クラスでの公開授業実施。 (2) ア 教育産業の基礎力診断テストにおける学習到達ゾーンの向上。	(1) ア 生徒アンケートによる満足度は66.8%であった。(△) イ 中退率は4.2%と減少した。(○) ウ 3.9ポイント上昇した。(○) エ 生徒指導の改善により、生徒が身だしなみ、授業態度、遅刻等の認識度が向上している。(◎) オ 全クラスで公開授業を実施できた。(◎) (2) ア 2年生の大学進学専科32名中、20名が、1年次に比べ、学習到達ゾーンが上昇した。(○)
2. 安全安心で魅力ある学校づくり	(1) 規範意識を身につけさせ、個々の生徒への支援体制を充実させる取組み ア 遅刻数削減の取組み イ 教育相談体制の充実 (2) 生徒の健康管理・安全衛生の意識を高める取組み ア 生徒保健委員会の活用 (3) 生徒会活動、部活動を通じた生徒の自己有用感、帰属意識の醸成 ア 行事、生徒会活動、部活動の活性化	(1) ア ・遅刻ゼロの日、生活強調週間、登下校指導の強化等、生徒の意識を喚起する取組みを推進する。 ・「遅刻指導」の回数、形態等の改善を図り、遅刻数のさらなる削減をめざす。 ・平成26年度に導入した身だしなみ、携帯電話に関する指導カード制を徹底し、一層規律ある学校生活を送らせる。 イ スクールカウンセラー、支援教育コーディネータ等の活用を通じて、個に応じた支援を充実させる。 (2) ア 行事後、考査前の一斉清掃(大清掃から呼称を変更)に徹底して取り組み、校内美化を推進する。 (3) ア・生徒会主催の校外清掃活動を年1回に集約し、より充実させるとともに、募金活動等、社会貢献につながる活動に取組む。 ・部活動を活性化し、生徒の加入率の向上に努めるとともに、施設設備の充実に取り組む。	(1) ア ・遅刻数前年度比20%削減(H26 15.2%)。 ・身だしなみ、携帯電話に係る懲戒指導件数の20%減。 イ 学校教育自己診断の教育相談関連の肯定的回答の5%増加(H26 36%)。 (2) ア 保健安全指導部による清掃点検における○(良好)の増加。 (3) ア ・参加生徒数200名以上。地域住民との交流。 ・加入率50%以上。(H26 54%)	ア遅刻総数は、4750、昨年度比55%減で、目標を大きく上回り、中期目標としている5000以下も達成できた。(◎) ・あらたに「授業規律違反カード」を新設し、懲戒指導に加えたため、件数は増加した。件数の増加は、指導方法の変更によるもので、教員、保護者の授業見学等のアンケート結果では、授業規律等の改善が報告されている。(○) イ 学校教育自己診断の結果を昨年度と比較すると、生徒は-2%減少したが、保護者は1%増加した。(△) (2) ア 清掃点検における良好の割合は、昨年度84.25%、本年度は84.75%で良好の割合が増加した。(○) (3) ア・参加生徒は212名で目標を達成した。また、地域住民との一斉清掃の取組みができ、地域からも良い評価を得ている。(○) ・加入率は42%であった。(△)
3. 自立・自己実現の支援	(1) キャリア教育・職業体験教育の充実 ア インターンシップ等への取組み (2) 資格取得を通じた生徒の達成感・成就感の醸成、進路実現意欲の向上 ア 資格取得や就職試験に向けた全学的な協力体制の推進 (3) 高等教育機関への進学希望生徒の支援 ア 工学系・大学進学専科における取組み (4) 「校長マネジメント推進事業中期計画推進費」における推進校としての取組み ア 小型人工衛星製作への取組み	(1) ア ・地域産業との連携を深め、受け入れ先企業の安定した確保に努める。 ・インターンシップを体験した生徒の成果発表の場を設け、参加生徒の増加につなげる。 (2) ア ・授業はもとより早朝、放課後の時間帯を活用し、生徒の資格取得を支援する。 ・就職試験のための個々に応じた面接指導の取組みを充実させる。 ・教育産業の支援を受け、本人の適性をより客観的に把握することにより、就職におけるミスマッチを防止する。 (3) ア 学校設定科目「大学連携」において、大学の施設等の見学、研究者の講話等を聞くことにより、高度技術者をめざす高い視座と大きな志を持たせる。また、平成27年度から実施する工学実習では、工業の基礎、基本を修得させ、理工学系大学へのスムーズな接続をめざす。 (4) ア 全国工業高等学校長協会の100周年記念事業「人工衛星打ち上げプロジェクト」の製作協力校として、電源周辺部品製作のための技術を学ばせる。	(1) ア・参加生徒50名(H26 25名)。 (2) ア・電気系2年生の第二種電気工事士合格率70%以上。その他の資格取得、特に危険物取扱者乙種、旋盤技能検定3級の合格者数の増加。 ・第1次就職試験合格率70%以上。 (3) ア 3校以上の大学見学等実施。 (4) ア ・ブレッドボードモデル(衛星開発の一番最初の段階で試作されるモデル)の完成。	(1) ア 8企業、団体に17名が参加した。(△) (2) ア・全員受験の2年生の第2種電気工事士の合格率は、83%で目標を大きく上回った。また、危険物取扱者乙種については、試験が年5回実施の4回終了時点で合格者44名(昨年同時期54名)、旋盤技能検定3級の合格者6名(昨年2名)で概ね目標を達成している。(○) ・第1次就職試験合格率は、71.8%で目標を達成できた。(○) (3) ア 大阪工業大学4回、摂南大学1回、大阪電気通信大学2回、2校3回の体験授業と3校4回の大学見学を実施した。関西大学の大学教授による出前授業を1回実施した。(◎) (4) ア ブレッドボードモデルを試作し、さらに改良したものを製作した。(○) ・8月に人工衛星製作協力校合同合宿に参加した。また、大阪府立大学工学研究科小型宇宙機システム研究センターと連携授業を2回実施した。(◎)
4. 地域連携・地域貢献の取組みの推進	(1) 中高連携の推進 ア 中学校の生徒、保護者、教員の工科高校への理解を促す取組み (2) 「ものづくり」による地域貢献活動の取組み ア 課題研究充実への取組み	(1) ア ・中学校教員向けの施設見学会等を実施する。 ・3つの系の連携を深め、地域の小中学校に働きかけ、出前授業を積極的に行う。 ・実習体験・オープンスクール・学校説明会について、反省点を踏まえ、実施方法、時期、PR方法等を改善し、参加者増加につなげる。 ・ホームページの充実を図り、学校情報を効果的に発信する。 (2) ア ・課題研究発表会を3系合同で実施し、1、2年生への啓発の場とするとともに、地域にも積極的に公開する。同時に、インターンシップの成果発表も行う。 ・アルミ製朝礼台等の製作・寄贈、茨木市イルミネーション事業への参画等の「従来のものづくり」による地域貢献活動を一層推進する。 ・関西サイクルスポーツセンターの「夢の自転車PROJECT」に応募し、「夢の自転車づくり」を行う。また、製作に際し、自転車メーカーの専門家の指導を受ける機会を設ける。	(1) ア・参加者数15名以上。 ・5校以上の出前授業実施。 ・延べ参加者数500名以上、アンケートによる満足度80%以上。 ・更新頻度を1週間に1回以上とする。 (2) ア・アンケートによる満足度調査。 ・茨木市内の小中学校への寄贈(2台以上)、イルミネーション事業への参画を継続。 ・より創造的な“夢の自転車”の製作、完成。	(1) ア 参加者数16名。(○) 出前授業実施3校。(△) 実習体験、オープンスクール、学校説明会の参加者数は424名。アンケートの満足度は、80%前後で昨年度とほぼ同じ水準となった。(○) ・更新頻度は平均1週間に1回以上を達成。アクセス数は昨年度比37%増である。(◎) (2) ア 課題発表会のアンケート結果について、生徒、教員ともすべての項目で肯定的な意見だった。(◎) ・アルミ製朝礼台を3台製作し、茨木市立小学校1校、中学校2校に寄贈予定である。また、いばらき光の回廊のイルミネーションの機材を製作し、事業の成功に貢献した。(○) “夢の自転車”1台を製作、完成させた。(○)